

2019年度 前期

# 東北大学会計大学院アンケート実施報告書

---

*Toboku University Accounting School*

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 1. はじめに

本大学院の目的はグローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。この目的を達成していくために第一義的に重要なことは、学生に対する教育である。我々は社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。我々は、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、各 Semester 終了後に授業アンケートを実施し、その分析を行ってきた。

アンケートの結果は、過年度分のアンケートを含めて「アンケート実施報告書」として会計大学院のWEBサイト (<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>) で公開している。我々の意図は、東北大学会計大学院への入学希望者、そして将来我々が教育した学生を受け入れていただくことになる監査法人・会計事務所・企業・官庁等の皆様に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。我々は、この調査報告書の公開により、東北大学会計大学院へ関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。

我々は、授業に関するアンケートを在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、アンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供すべく努力していきたいと考えている。本報告を含めて、会計大学院について、様々なご意見をいただければ幸いである。

最後に、本学は、2018年度において特定非営利活動法人 国際会計教育協会による分野別認証評価を受審し「認定会計大学院」の称号を得ることができた。これは、学生、事務スタッフ、教員の努力、そしてその他ご協力いただいた皆様のご助力の下でなしえたものである。改めて関係のみなさまに深く感謝申し上げたい。

2019年11月  
東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 2. 実施方法

本報告は、2019年度前期の「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末付録1参照）に関する集計値である。アンケートは講義中に配布・回収を行い、のべ308名の回答を得た。アンケートは無記名であり、受講生が5人以上のすべての講義と、受講生が5人未満であっても担当教員が希望する講義について実施した。

今回の報告の目的は、本会計大学院における教育の現状を学生・教員へタイムリーに報告することであり、アンケート質問項目ごとの分析は行わず、アンケートの集計結果のみを示すこととし、各項目な詳細な分析については、後期に実施するアンケートの報告書において報告する（2020年4月頃の予定）。

また、本会計大学院の教育内容・教育方法全般に関する調査および分析を今年度後期に実施するアンケートにおいて実施したいと考えている。ただし、今回のアンケートの結果および学生から寄せられた意見の中で、特に重要な点については確認し、ファカルティスタッフで共有している。さらに、各科目のアンケートの集計結果（自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は担当教員に直接報告されており、ワークショップ委員会では、これが後期以降の講義内容の充実に資することを期待している。

### 3. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

#### 3.1. アンケートの実施状況

2019年度前期における開講科目（連続講義は除く）のうち、履修者が5名以上の講義と、教員がアンケートの実施を申し出た科目の、合計18科目についてアンケートが実施された。アンケート実施科目の履修者とアンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
財務会計1	42	35
財務会計3	6	6
簿記1	47	37
簿記3	12	11
原価計算1	44	35
監査1	39	36
公会計2	13	10
会計職業倫理	31	26
企業法1	19	17
金融行政1	11	7
法人税法1	9	9
管理会計2	18	17
ビジネス・コミュニケーション1	22	19
ビジネス・コミュニケーション2	4	4
企業情報システム	21	21
マクロ経済学	14	9
所得税法	6	5
統計学1	5	4
合計	363	308

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいるケースもある。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、のべ履修者数363名に対して308名から回答を得た。アンケートの回収率は85%と高い水準にあり、今回のアンケート結果は会計大学院学生の総意を反映しているものと考えられる。

なお、質問項目17は科目担当教員が独自に行う質問であり、集計に含めていない。

### 3.2. アンケートに関する基本統計量

各質問の選択肢に付与された数値は、質問1を除き、のぞましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。併せて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの質問項目については付録2を参照されたい。

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	62	267	16	11	16	103	206	245	237	215	238	214	231	169	204	47
4	208	11	12	14	22	148	77	42	41	59	50	65	55	57	62	1
3	21	3	25	33	38	45	19	14	21	22	17	26	17	49	31	154
2	1	2	40	40	63	9	5	5	7	11	3	3	3	14	3	0
1	8	10	95	124	92	2	1	1	1	1	0	0	2	18	7	89
0	0	13	117	83	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	300	306	305	305	304	307	308	307	307	308	308	308	308	307	307	291
平均値	4.05	4.58	1.24	1.36	1.64	4.11	4.56	4.71	4.65	4.55	4.70	4.59	4.66	4.12	4.48	2.71
中央値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
最頻値	4	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
標準偏差	0.73	1.27	1.41	1.30	1.42	0.80	0.71	0.66	0.74	0.80	0.62	0.68	0.69	1.19	0.89	1.34

表2：アンケートの基本統計量

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。

質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1															
2 出席	-0.208	1														
3 予習	-0.073	0.110	1													
4 復習	-0.093	0.124	0.767	1												
5 宿題	0.102	-0.022	0.482	0.465	1											
6 理解	0.100	0.063	0.167	0.121	0.075	1										
7 難易度	0.074	0.097	0.091	0.032	0.078	0.580	1									
8 教員準備	0.085	0.032	-0.041	-0.023	0.023	0.223	0.432	1								
9 プレゼン	0.145	-0.027	0.010	-0.010	0.050	0.287	0.481	<b>0.663</b>	1							
10 教材	0.146	-0.024	0.019	0.006	0.028	0.345	0.501	<b>0.627</b>	<b>0.624</b>	1						
11 評価方法	0.093	0.052	0.015	0.025	0.045	0.252	0.345	0.562	0.501	0.530	1					
12 シラバス	0.153	0.008	-0.037	0.011	-0.013	0.331	0.421	<b>0.660</b>	0.524	<b>0.607</b>	<b>0.646</b>	1				
13 教員評価	0.100	-0.014	-0.002	0.025	0.075	0.252	0.451	<b>0.788</b>	<b>0.713</b>	<b>0.705</b>	0.590	<b>0.680</b>	1			
14 対試験	0.105	0.080	0.116	0.161	0.018	0.269	0.292	0.246	0.224	0.299	0.234	0.231	0.308	1		
15 キャリア	0.113	-0.039	0.103	0.057	0.077	0.305	0.392	0.455	0.418	0.525	0.365	0.461	0.548	0.363	1	
16 資格	0.031	-0.002	-0.061	-0.122	0.056	-0.107	-0.029	-0.003	-0.010	-0.002	0.038	0.012	0.013	-0.037	0.031	1

表3：質問項目間の相関関係

上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院のWEBサイト (<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>) を参照されたい。

#### 4. まとめと自由記入欄に対する回答

例年の傾向であるが、基本統計量の分析結果から（表2および付録2）、ほとんどの学生が90%以上授業に出席しているものの、授業の予習・復習に当てる時間が少ない傾向にある。担当教員の講義水準の設定、課題の設定などについて、これまで以上の工夫が必要である。また、質問16に反映しているが、学生の多様化（社会人学生、留学生の増加）が進んでおり、それに対応することも必要である。ただし、質問13～15における授業や教員に対する評価は高い水準にあり、本セメスターの教育において、全体としては問題がなかったと結論づけられる。

相関係数の結果（表3）は、教員の評価（質問13）が授業の準備（質問8）、プレゼン技法（質問9）、教材（質問10）、評価方法（質問11）が高い相関関係を有することは例年通りであるが、シラバス（質問12）とも高い関係を示したことは特筆すべき結果であろう。これは、学生の科目選択に対応するシラバスの重要性を示すものであり、本学が設置以来重視してきた、詳細なシラバスの意義が浸透してきたものと解される。また、対試験との相関係数は低く（0.231）学生が会計大学院の講義に受験対策以外のものを期待していることが窺える。

これらの分析結果はいずれも例年から大きく変わる場所ではない。教員が講義の計画（シラバス）を綿密に設定し、各授業に万全の準備の下でのぞむこと、そして、優れた教育方法や検討すべき問題点を教員間で共有し、継続的に講義内容を改善することが必要であるといえる。ここで前者については各教員の意識に帰すところであるが、後者は組織的に進めていくことが必要である。こうした点をふまえ、本報告をベースとしたFD会を2019年12月に実施する予定である。

付録1：「会計大学院の授業に関するアンケート」（2019年度前期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (4) 公認会計士コース（1年） (3) 会計リサーチコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この授業にどのくらい出席しましたか？	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この授業が基礎、展開、実践・応用科目 <sup>(注)</sup> の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

(注) 実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この授業のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	授業を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し	(5) と (3) の両者に該当する方は、(5) のみ回答してください。
17	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
18	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。



付録2：アンケート集計結果（2019年度前期）

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
質問1 あなたの専攻・コース (学年)について、該 当するものを選んで下 さい。	(5) 公認会計士コース(2年)	62	20.67%	質問9 教員の説明や声量な ど、授業でのプレゼン テーションは良好でし たか。	(5) 十分	237	77.20%
	(4) 公認会計士コース(1年)	208	69.33%		(4) ほぼ十分	41	13.36%
	(3) 会計リサーチコース	21	7.00%		(3) どちらともいえない	21	6.84%
	(2) 経済経営学専攻	1	0.33%		(2) やや不十分	7	2.28%
	(1) 経済学部	8	2.67%		(1) 不十分	1	0.33%
	(0) その他	0	0.00%		合計	307	100.00%
質問2 この授業にどのくらい 出席しましたか。	合計	300	100.00%	質問10 テキスト・参考書ある いはプリント等は適切 でしたか。	(5) 適切	215	69.81%
	(5) 90%以上	267	91.13%		(4) ほぼ適切	59	19.16%
	(4) 89-70%	11	3.75%		(3) どちらともいえない	22	7.14%
	(3) 69-50%	3	1.02%		(2) やや不適切	11	3.57%
	(2) 49-20%	2	0.68%		(1) 不適切	1	0.32%
(1) 20%未満	10	3.41%	合計	308	100.00%		
質問3 この授業の予習に毎回 どのくらいの時間を掛 けましたか。	合計	293	100.00%	質問11 この授業の成績評価の 方法は適切であると思 いますか。	(5) 適切	238	77.27%
	(5) 5時間以上	16	5.25%		(4) ほぼ適切	50	16.23%
	(4) 4-5時間	12	3.93%		(3) どちらともいえない	17	5.52%
	(3) 3-4時間	25	8.20%		(2) やや不適切	3	0.97%
	(2) 2-3時間	40	13.11%		(1) 不適切	0	0.00%
	(1) 1-2時間	95	31.15%		合計	308	100.00%
(0) 1時間未満	117	38.36%	質問12 この授業のシラバスは 授業を理解する上で役 に立ちましたか。	(5) 役に立った	214	69.48%	
合計	305	100.00%		(4) まあまあ役に立った	65	21.10%	
質問4 この授業の復習に毎回 どのくらいの時間を掛 けましたか。	(5) 5時間以上	11		3.61%	(3) どちらともいえない	26	8.44%
	(4) 4-5時間	14		4.59%	(2) あまり役に立たなかった	3	0.97%
	(3) 3-4時間	33		10.82%	(1) 役に立たなかった	0	0.00%
	(2) 2-3時間	40	13.11%	合計	308	100.00%	
	(1) 1-2時間	124	40.66%	質問13 総合的に見て、この授 業における教員のバ フォーマンスをどう評 価しますか。	(5) 評価できる	231	75.00%
	(0) 1時間未満	83	27.21%		(4) まあまあ評価できる	55	17.86%
合計	305	100.00%	(3) どちらともいえない		17	5.52%	
質問5 この授業の宿題に毎回 どのくらいの時間を掛 けましたか。	(5) 5時間以上	16	5.26%		(2) あまり評価できない	3	0.97%
	(4) 4-5時間	22	7.24%		(1) 評価できない	2	0.65%
	(3) 3-4時間	38	12.50%	合計	308	100.00%	
	(2) 2-3時間	63	20.72%	質問14 この授業は公認会計士 試験を受験する上で役 立つと思いますか。	(5) 役立つ	169	55.05%
	(1) 1-2時間	92	30.26%		(4) まあまあ役に立つ	57	18.57%
	(0) 1時間未満	73	24.01%		(3) どちらともいえない	49	15.96%
合計	304	100.00%	(2) あまり役に立たない		14	4.56%	
質問6 この授業の内容をどの 程度理解できたと思 いますか。	(5) 理解できた	103	33.55%		(1) 役に立たない	18	5.86%
	(4) ほぼ理解できた	148	48.21%	合計	307	100.00%	
	(3) どちらともいえない	45	14.66%	質問15 この授業は、将来の キャリアにおいて役立 つと思いますか。	(5) 役立つ	204	66.45%
	(2) あまり理解できなかった	9	2.93%		(4) まあまあ役に立つ	62	20.20%
	(1) 理解できなかった	2	0.65%		(3) どちらともいえない	31	10.10%
	合計	307	100.00%		(2) あまり役に立たない	3	0.98%
質問7 この授業の難易度は会 計大学院の講義として 適切だと思いますか。	(5) 適切	206	66.88%		(1) 役に立たない	7	2.28%
	(4) ほぼ適切	77	25.00%	合計	307	100.00%	
	(3) どちらともいえない	19	6.17%	質問16 あなたが既に合格して いる資格試験等につい て、該当するものを選 んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認 会計士短答式・論文集 or 日 商簿記1級	47	16.21%
	(2) やや不適切	5	1.62%		(3) 日商簿記2級	154	53.10%
	(1) 不適切	1	0.32%		(1) 上記についてなし	89	30.69%
	合計	308	100.00%		合計	290	100.00%
質問8 教員のこの授業に対す る準備は十分でした か。	(5) 十分	245	79.80%				
	(4) ほぼ十分	42	13.68%				
	(3) どちらともいえない	14	4.56%				
	(2) やや不十分	5	1.63%				
	(1) 不十分	1	0.33%				
	合計	307	100.00%				

2019 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	吉永 裕登
委員	木村 史彦
委員	青木 雅明
委員	松田 康弘
委員	亀岡 恵理子

会計大学院アンケート実施報告書 2019 年度前期

2019 年 11 月発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会